

大学ポートレート運営会議（第5回） 議事録

1. 日 時 平成28年7月12日（火） 15:00～16:20

2. 場 所 学術総合センター11階 1112会議室

3. 出席者

（委員）

岡本委員、清原委員、相良委員、佐藤委員、鈴木委員、田中委員、日高委員、村上委員、
水戸委員

小松私立短期大学協会事務局長（麻生委員代理）、
松ヶ迫短期大学基準協会事務局次長（原田委員代理）、
山本国立大学協会専務理事（山極委員代理）

（オブザーバー）

文部科学省：伊藤高等教育政策室長

（事務局：大学改革支援・学位授与機構）

武市大学ポートレートセンター長、鎌塚評価事業部長、
金大学ポートレートセンター事務室長

（事務局：日本私立学校振興・共済事業団）

谷地私学経営情報センター長

4. 議 題

- （1）今後の大学ポートレートの改善に向けた取組状況について
- （2）大学ポートレートの国際発信について
- （3）認証評価機関連絡協議会からの要望への対応について
- （4）その他

【鈴木議長】

ただいまから「大学ポートレート運営会議（第5回）」を開催いたします。本日の会議は、大学ポートレート運営会議決定によって公開とさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

本日は、麻生委員、原田委員、山極委員がご欠席です。このため、麻生委員の代理として小松茂喜私立短期大学協会事務局長に、原田委員の代理として松ヶ迫和峰短期大学基準協会事務局次長に、山極委員の代理として山本健慈国立大学協会専務理事にご出席いただいております。

それでは、議事に入りたいと思います。

資料1、大学ポートレート運営会議（第4回）の議事録（案）については、事前に各委員にご確認いただいておりますので、これにて確定とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

（委員からの異議なし）

【鈴木議長】

ありがとうございます。続きまして、今後の大学ポートレートの改善に向けた取組状況についてです。大学ポートレートの改善につきましては、平成27年12月に開催された大学ポートレートステークホルダー・ボードでご意見等をいただきまして、平成28年3月の本運営会議（第4回）において、いただいたご意見を報告、今後の取組についてご審議いただいたところです。これまでの取組状況も踏まえ、大学ポートレートの改善に関する現在の取組状況について事務局から説明をお願いいたします。

【金大学ポートレートセンター事務室長】

始めに参考資料1をご覧ください。こちらは、先ほど議長からお話がありましたとおり、平成27年12月に大学ポートレートステークホルダー・ボードを開催し、その際の主な意見について平成28年3月の本運営会議（第4回）において配付した資料でございます。当日は公表画面や公表項目、広報についてご意見をいただきました。

次に資料2をご覧ください。ご意見等を踏まえた現状の取組状況を報告いたします。

1ページ目、取り組んでいる事項について、大きく3つございます。1点目は情報の充実に向けた改良についてということで、その中の1つ目が、認証評価への活用に向けた項

目の充実でございます。この案件につきましては、本日の議題にもなっておりますが、前回の本運営会議（第4回）でご議論いただきました認証評価機関連絡協議会からの要望についてでございます。その他の取組としては、内容の充実として、国公立大学のオープンキャンパスなどのイベント情報を一覧で見られるよう、各大学のRSSによる発信情報を大学ポートレートのトップページで試行的に表示すべく、現在準備中でございます。具体的には、平成28年6月中旬に各国立大学にURLの確認をさせていただいており、早ければ8月頃から、国立大学の情報を試行的に発信することを予定しております。まず、国立大学の情報を発信させていただきまして、順次、公立、私立と発信していければと考えております。

2点目の取組は、情報提供・活用についてでございます。1つ目の負担軽減のための大学情報の提供については、国公立大学の平成25年度から27年度分の大学基本情報を平成28年6月から提供を開始しております。具体的には、資料2の3ページ、「(参考)大学基本情報について」をご覧ください。大学ポートレートの先行実施としまして、平成24年度分の大学基本情報を大学改革支援・学位授与のウェブサイトで公表しておりましたが、新たに平成25年度から平成27年度分を公表したものでございます。具体的な公表項目につきましては、裏面をご覧ください。と思えます。

資料2の1ページ目に戻っていただきまして、2つ目として活用についてです。国公立大学について、国立大学間、または公立大学間での教育情報の活用について、それぞれ合意を既に得ております。その合意を踏まえまして、情報分析ツールを各大学に提供すべく現在検討している状況でございます。私立大学につきましては、各私立大学・短期大学の特色ある取組などの教育情報を取りまとめた報告書を、平成28年9月頃を目途に各学校法人に提供する予定でございます。また、日本私立学校振興・共済事業団が実施している経営相談で、教育情報を活用することを予定しているところでございます。今後につきましては、本運営会議において、大学団体等からの取組状況等の報告を予定しております。

3点目の取組としまして、広報活動についてです。大学ポートレートのチラシにつきまして、昨年度に引き続き、関係団体が開催する会議等での配布を依頼しております。その他、メーリングリストでの案内、関係団体での講演、取材対応等を実施しているところでございます。平成28年6月には、全国高等学校進路指導協議会が大学改革支援・学位授与機構を訪問し、大学ポートレートについて意見交換を実施いたしました。

資料2の裏面には、検討が求められる課題として2つの項目を挙げております。1つ目

としまして、項目の追加・充実でございます。具体的には、受験生や学生が求めている学生支援に関する項目の充実と、中退率や定員充足率等の項目の追加の検討でございます。2つ目としまして、公表画面の機能の充実に向けた改良ということで、比較機能の設定や比較する具体の情報についての検討でございます。これら2つの検討課題につきましては、大学ポートレートステークホルダー・ボードや前回の本運営会議において委員からご意見をいただいておりますので、今後さらに検討していきたいと考えております。

説明は以上でございます。

【鈴木議長】

ありがとうございます。

大学ポートレートステークホルダー・ボードからのご意見につきましては、前回の本運営会議でご報告いただいております。提言内容については改めて協議を行うということにしておりました。ただいまご報告いただきましたように、既に一部のご指摘については、改善に向けて取組がなされているところであります。

それでは、ただいまの説明を踏まえまして、今後の大学ポートレートの改善に向けた取組について、ご意見を頂戴したいと思います。

【清原委員】

情報の活用について、先ほどお話しいただいた情報分析ツールは、具体的にどのような活用を目的として開発されているのか、例を教えてください、持ち帰って検討させていただきたいと思っております。

それから、私立大学は特色ある取組等の教育情報を提供することを予定とお話がありました。これは大変よいことだと思っております。私ももぜひ地方創生の中で、例えば公立大学の役割に関する様々な活動の中でお互いに交流したいと思っております。これは国立大学や私立大学も含めてそのような活動をしていきたいと思っておりますが、この件についての進捗状況、私学でそのような活動の進捗が見られるのかということについて、教えていただけたら非常に参考になると思っておりますので、よろしく願いいたします。

【武市大学ポートレートセンター長】

1点目についてご報告いたします。現在のシステムの中でBIツール、ビジネスインテリ

ジェントツールという、データベース上にあるデータに対してエクセルで操作、データ分析を行うような基本的なツールを、大学改革支援・学位授与機構が担当している国立大学及び公立大学が利用できるように現在準備しております。ただ、そのままですと、どのような形で使うかはお任せになってしまいます。現在、大学改革支援・学位授与機構研究開発部では、国立大学協会の評価委員会を通じて、例えばEU でつくられている U-Multirank、つまり1つの指標に集約するわけではなく、多面的なランキング指標を用いているいろいろな特徴的な指標をみずから設定して、大学の状況を把握するためのツール、または、同じくEU による U-Map のように、各大学の特徴を相対的な形で表示できるようなツールを平成28年度中に提供する予定でございます。

BI ツールというのは、必ずしも大学改革支援・学位授与機構のシステムだけで活用されているわけではなく、広く企業一般で分析するために使われているものでございます。

【清原委員】

いわゆる IR 的な活用ということでしょうか。

【武市大学ポートレートセンター長】

BI ツールは、もちろん IR の一環として利用することもできますし、それ以外の目的にも活用できます。大学改革支援・学位授与機構が保有しているデータにアクセスすればどのような形ででも使うことができます。

【谷地私学経営情報センター長】

清原委員の2つ目のご質問に関してでございますけれども、日本私立学校振興・共済事業団は、従来から学校法人基礎調査を実施しておりまして、その調査で、大学から幼稚園までのいわゆる人数系の情報——教員数、職員数、学生数——、財務系の情報——貸借対照表、収支計算書——などの教育情報を収集し、「今日の私学財政」という冊子にまとめて、学生の動向であるとか経営状態の推移といったような分析を学校法人に提供しております。大学ポートレートが始まることをきっかけに、「今日の私学財政」の教育情報版といったものを準備しているところでございます。私立大学の大学ポートレートの国内発信につきましては、教育上のいろいろな取組、特色を主に情報を発信しておりまして、それをまとめた冊子になります。例えば、日本の大学はどういった取組が実施率が高くて、ど

ういった取組が実施割合が低いのかといったものを集計した白書のような内容のものになります。現在の予定では、9月末までには冊子で学校法人にお配りをしたいと思っております。また、ウェブサイトにも、8月までには公表できるよう、準備を進めているところでございます。

【村上委員】

大学ポートレートでは、本運営会議で考えられた項目をこれまで公開しているわけですが、利用者、いわゆるステークホルダーの欲するデータを増やしていかないといけないと思っています。先ほどの報告の中で、全国高等学校進路指導協議会と意見交換をされたとありましたけれども、このような欲しいデータの吸い上げ等の調査もされたのかどうか伺いたく思います。

あと、本運営会議（第4回）の議事録を読みますと、国際発信の項目が◎、○、◆の3分類に整理されておりました。議事録によると、最終的には原案のとおり認められたと書いてございますが、◎は増やす方向に持っていかないといけないと思っています。データが空欄になっているためにある大学を検索しても出てこないということがあると、データベース全体の信頼性が失われてしまうと思います。

【武市大学ポートレートセンター長】

全国高等学校進路指導協議会、指導主事の方々との意見交換では、公的な資格についての情報が特に進路指導をする際に必要であるというご指摘を伺いました。それは現在も検討しているところでございます。

◎を増やす方向という件でございますが、本運営会議でどのようにご判断いただくかということによります。本運営会議の決定を持って、各大学に◎は必須項目であると大学ポートレートセンターがお伝えするものと理解しております。

【水戸委員】

参考資料1の大学ポートレートステークホルダー・ボードの主な意見の中で、公表項目に関する2番目の○に、「中退率や定員充足率は大学を判断するのに必要な情報」であり、「生徒に適した大学を選ぶ手段として価値あるものになる」とあります。また、公表項目に関する下から2番目の○には、「小規模な地方私立大学が定員を満たせない状況の中で、

大学ポートレートがどこまでの情報を公表すべきか」という意見もあります。私立大学は600校以上あるわけですが、その約4割強過去5年間、恒常的に定員未充足状態が続いていることは事実です。私立大学も上位の60大学程度は、隆々と経営をやっていますけれども、その他の480校以上の大学は、定員800人以下の中小規模の私立大学が多いわけで、特に地方にある私立大学については、国立大学との学費等の格差から定員未充足状態がずっと続いており、参考資料2にあるような情報を一律で出すということについては、私立大学全体としていろいろな意見が出てくるのではないかと思います。

【佐藤委員】

日本私立学校振興・共済事業団には、私立の経営の安定した大学、そうでない大学、ぎりぎりまで経営されている大学の情報が全て集まっています。情報については当然公表というのが世の趨勢ですから、私立大学を知っていただくという意味での公表は大事だと思っております。ただ、全体の4割が定員割れ、赤字の大学も同じくらいあるといった状況の中で、国立大学や公立大学と同じ競争条件にない私立大学についての情報を同じように出すというのは、非常に抵抗があります。日本私立学校振興・共済事業団は中立な立場ですので、全て拒否することはしませんけれども、そうは言っても、良いところと悪いところの両方を見なければならぬ立場として、少し懸念される場合がございます。

【日高委員】

定員充足は、法人経営の不手際で充足が満たされていない場合もありますし、最近では首都圏で定員充足率が非常に厳しくなっていて、線引きを間違っただけで定員が割れたという場合もあります。東日本大震災、あるいは熊本の地震等の外的な要因で、持ち直すのに5年、10年の期間がかかって、定員充足を段階的に上げざるを得ないという大学もありますので、数字がひとり歩きしないようなデータの出し方を工夫しないといけないと思います。一律にデータを見ると、単なる数字のひとり歩きになりますし、非公開とすると、全然だめだという逆の評価にもなりますので、そのあたりの工夫が一番大切なのではないかと思っております。

【鈴木議長】

ありがとうございます。これは非常に難しい問題で、中立的な立場と言いながらも、そ

それぞれの立場がおりますので、統一の方針というのも難しいことだとも思います。

ご議論を踏まえまして、今後の大学ポートレートの改善に向けた取組については対応可能なものから取り組んでいただき、さらなる検討が必要なものについては、今後、大学ポートレート運営会議に係る実務者協議会等で改めてご協議いただきまして、対応していくこととしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、次に大学ポートレートの国際発信につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【金大学ポートレートセンター事務室長】

始めに参考資料2をご覧ください。参考資料2は、国際的な発信が望まれる教育情報ということで、昨年度に本運営会議の下に専門委員会を設け、ご議論いただいた項目でございます。それを踏まえまして、前回の本運営会議において、国際的な発信が望まれる教育情報の126項目につきましてご審議いただき、ご了承いただきました。

資料4をご覧ください。大学ポートレート国際発信システム構築のための基本方針(案)でございます。先ほど説明いたしました参考資料2に基づきまして、大学改革支援・学位授与機構内で詳細を検討し、大学ポートレート運営会議に係る実務者協議会で議論してまいりました。

1点目として表示項目についての方針案としては、大学ポートレートの国際発信につきましても国内発信と同様に参加は大学の任意としております。また、参考資料2にございますとおり、発信項目126項目については、◎、○、◆と3種類に分類しております。

次に、区分についての方針案でございます。これまでの検討内容としましては、126項目全ての項目を入力できるように設計することを考えております。また、126項目の発信項目につきまして、基本情報と追加情報の2つに分類し、スマートフォン対応ができるようシンプルな設計にすることを考えております。さらに、発信項目の内容につきましては、資料4に記載の区分(案)のように、表示タブを設けて区分し、複数タブに重複して表示することもあり得るという方針案でございます。

資料4の裏面を見ていただきまして、データの転記について説明いたします。大学の作業負担を軽減する観点から、日本語版大学ポートレートに掲載されている数値等のデータにつきましては、大学改革支援・学位授与機構側で国際発信用システムにあらかじめ流し込むというのが1つ目でございます。2つ目としまして、表示項目のうち外部ウェブサイ

トに掲載されているデータにつきましては、大学改革支援・学位授与機構と関係団体間で調整し、データを国際発信用システムに流し込むという趣旨でございます。最後に3つ目として、掲載する情報につきましては、可能な限り大学ポータル内にて完結するようにするという方針でございます。

次に検索項目について方針案を説明いたします。ユーザーの使い勝手をよくする観点から、検索機能を充実させることを考えております。機能充実の1つ目としまして、学問分野の検索を考えております。既存のコードを利用して学問分野の選択、あるいはフリーワードによる絞り込み検索を行えるようにするという事です。2つ目としましてフリーワード検索を充実させることと、また、本運営会議の委員から要望のありました入学時期、特別選抜の有無等を含めて検索の機能を充実することについて検討しております。また、立地条件であったり関心分野などの嗜好を回答することで、該当する大学が幅広く表示されるといった、大学の選択肢が明確でないユーザーの方でも利用しやすい検索方法をあわせて設ける方針でございます。

3つ目としまして、運用開始後のレイアウト等の変更につきましては、随時システム構築後も対応する方針でございます。

最後に、今後のスケジュールについてご説明いたします。資料4の方針案につきまして、本運営会議で大枠としてご了承いただけましたら、大学改革支援・学位授与機構は平成28年度に調達手続をしまして、システム構築を開始する予定です。その後、平成29年度にデータ入力作業を開始し、国際版を公表するといったスケジュールを考えております。また、私立大学につきましては、予算の関係もございまして1年ほど遅れて、平成29年度に調達手続を行い、システム構築を開始、平成30年度に国際版の公表といったスケジュールで考えているところでございます。

資料3をご覧ください。資料3は、国際発信の画面イメージでございます。資料4の方針案を踏まえまして、上の方にタブを3つ（General Information、Academics、Supports/Campus Life）設けまして、閲覧者がそのタブをクリックすることで表示内容を切り替えるようにしたいと考えております。また、先ほど説明いたしましたが、基本情報と追加情報に区分し、基本情報につきましては、基本的に入力していただきたい項目となりますが、各大学によって国際発信への注力に濃淡があるかと思っておりますので、追加情報につきましては、各大学の入力を任意としまして、一切入力がない項目につきましては、項目自体が表示されないシステムにしたいと思っております。

以上、資料の説明でございます。ご審議いただきますようお願いいたします。

【村上委員】

資料4の2ページ目、上から4行目の外部サイトというのは何でしょうか。

【金大学ポートレートセンター事務室長】

例えば、日本学生支援機構でも留学に関する数値やデータを蓄積・公表しておりますので、そのようなデータを活用するということでございます。

【日高委員】

基本情報というのは、参考資料2の126項目全てを指すのでしょうか。あるいは、126項目中の一部を指すのか、126項目以外に追加事項を作ることなののでしょうか。

【武市大学ポートレートセンター長】

参考資料2で発信の程度をご覧くださいと、◎と付している項目が35項目ございます。資料3で示されております基本情報というのは、大学に基本的に入力していただきたい項目で、◎項目が中心となっております。

【田中委員】

資料4の2ページ目のデータの転記についてですが、上から3行目を読みますと、データについては大学改革支援・学位授与機構と関係団体とで調整となっていますけれども、それぞれの大学で英語化していない情報については英語化していただけるという意味なのでしょうか。

【武市大学ポートレートセンター長】

基本的には日本語版大学ポートレートと同様で、大学にご用意いただく方針ですが、既にいろいろな団体にデータを提供されている情報があれば、そのような情報についてはあらかじめご提出いただく調査票中に入力した状態で大学にお渡しすることになるかと思っています。

【田中委員】

項目によって付け加えたいところがあれば大学が準備してデータを提出するという手順になるんですか。

【武市大学ポートレートセンター長】

そのとおりです。日本語版においても、項目の定義等については大学ポートレートセンターが用意して、調査票とともに定義に従ってこの部分を用意していただきたいと依頼いたしました。それと同じような形で、共通の理解が得られるような形の情報は提供させていただきます。予定でございます。

【鎌塚評価事業部長】

日本語版大学ポートレートの情報や、日本学生支援機構の情報の流用というのは、数値や記号といった流用しやすいデータになります。田中委員がおっしゃった英訳しないといけない言葉、文章というのは、流用して持ってくるのは難しいので、そういった項目については、各大学に作業をお願いする割合が多くなると思います。流用の多くは数字等のデータとご理解していただければと思います。

【相良副議長】

国際発信に反対しているわけではないのですが、考えれば考えるほど厄介だなと思うのです。その例を一つ挙げますと、参考資料2の4番目の項目に宗教、宗派があり、宗教のバックグラウンドの有無、有の場合は宗派を記載とあります。おそらく世界中の宗教を信じる人たちは、こんな単純な情報では満足しないと思います。イスラムだと書けばよいのか、シーア派、スンニ派と書かなければならないのではないかと、といったことです。また、47項目目にはキャンパスという項目がありますが、大学のキャンパスでのモスクの有無ということも、宗教との関わりで情報を出さなければならないと思います。これは一例でしかなく、このようなことをやっていたら無限に終わらないということもよく分かっていますが、どのような線引きをするのでしょうか。

【武市大学ポートレートセンター長】

宗教、あるいは宗派を単一の言葉で書くということを求めるものではございません。つ

まり、大学が、それを含む記述をここに書いていただければよろしいかと思います。統計的に使うためのデータではございませんので、大学にその記述内容はお考えいただくのがよろしいかと思います。先ほど定義を用意すると申し上げましたけれども、端的に宗教、宗派としか書いてありませんので、単にこれだけですと、どこまで書くのかといったことになるかと思いますが、この項目については画一的な記述を求めるものではありません。大学でお考えいただくというのが基本でございます。

【水戸委員】

国際発信であるがゆえに、国内への発信項目にないものを選び出さなければいけないという理由は理解できますが、国内発信の項目で若干議論のあった項目までが含まれているように思います。具体的には、126番目の項目として退学者の状況とありますが、この項目は要するに退学率を意味していると思います。総数を示して、そのうち他大学に転学した場合は書きなさいという指示になっていますが、この項目については、たしか、国内版の大学ポートレートの公表項目を審議する際に若干議論があったのではないかと記憶しています。国際発信であるがゆえにこの項目が付け加えられたということだと理解しています。記入は任意になっていますから、いいのですが、どういう理由で付け加えたのでしょうか。

【武市大学ポートレートセンター長】

基本的にはただいまご指摘いただいたとおり、任意であるということですが、留学しようとしている生徒にとって情報を与えるのが望ましいと思われるときには記述をお願いしたいという形で入れてございます。

【水戸委員】

国際発信項目としては、データベースとしては相当な大きさになるのではないかと思います。特に私立大学を全部入れるとすると、国立は86大学、公立は88大学、私立大学は大学全体の8割弱あるわけです。私立大学のデータベースは日本私立学校振興・共済事業団が開発されるわけですが、費用面でどうなのでしょう。

【佐藤委員】

日本私立学校振興・共済事業団は国から運営に係る補助金をいただいていません。事業団の運営費は全て融資事業で発生した利益で賄っているわけですが、近年は財政上非常に厳しい状況ではあります。ただ、それは日本私立学校振興・共済事業団だけの話です。しかし、800、900 という学校数に関して 126 項目全てを集めるためには、おそらくシステム開発に 1 億円、2 億円はかかってしまうと思います。その分、国から何かしらの補助が出るというのであれば別ですが、日本私立学校振興・共済事業団の仕組みはそのような形になっていないものですから、これは非常に厳しい状況です。もう一つは、構えるデータベースの大きさです。国際発信にどれだけの私立大学が参加するかというのは、日本私立学校振興・共済事業団としても非常に懸念しているところです。お金をかけてシステムをつくり、箱を用意したものの、実際として箱の中が空だったということになるならば他のことにお金を使ってほしい、という要望が私立大学の有識者会議でも出ておりまして、126 項目を全部集めるのは厳しい状況にあります。

【鈴木議長】

いかがでしょうか。これも唯一の解決策というのがなかなか難しい面があって、小さく生んで大きく育てると合言葉のように使っておりましたが、この一例からもその原則をずっと守っていかなければいけないのではないかと思います。

【佐藤委員】

前回の本運営会議で、◎、○、◆のうちの◆については、学校のウェブサイトリンクするだけでもよいのではないかというお話が出たと思います。資料 1 の 16 ページで、大学ポートレートセンター事務室からもそのようなお話が出ていましたので、そのような形であれば少し様子が変わってくるのかなと思っているのですが、そのあたりは、大学ポートレートセンターとしてどのようにお考えでしょうか。

【武市大学ポートレートセンター長】

それはもちろん可能で、少なくとも◆の項目については、リンクを張ることも考えられると思います。どの◆をどうするかということについては検討する必要があるかと思いますが、説明を書いて、その説明文の中にリンクがあってもおかしくはないと思います。

【佐藤委員】

リンクを張るのであれば、リンクの場所だけ桁数を用意しておけばよく、データの大きさによって開発費用も変わってくると思っています。

【武市大学ポートレートセンター長】

長いリンクもあれば短いリンクもあるので、あらかじめ 120 文字とか、そういったものを用意するとなれば、文章で書くのもあまり変わりはないと考えております。具体的なデータベースの設計に係ることですので、システムを構築する際の課題であろうと思います。

【水戸委員】

今でも大規模の私立大学は、大学ポートレートから各大学のウェブサイトに移ります。特に大きな大学では遷移して処理している傾向がある感じがしますので、そのような解消策が考えられるということで理解します。

【鈴木議長】

国内発信、国際発信という中でいろいろな問題があり、この場で決めるということも難しい面がありますけれども、このような方向性で進めるということによろしいでしょうか。

(委員からの異議なし)

それでは、事務局から提案のあったとおり進めていくということにしたいと思います。今後の開発の詳細につきましては、大学ポートレート運営会議に係る実務者協議会で調整しつつ、次回の大学ポートレート運営会議で報告していただくということにしたいと思います。

続きまして、議題 3、認証評価機関連絡協議会からの要望への対応についてです。平成 28 年 3 月に認証評価機関連絡協議会から提出された、大学ポートレートの充実についての要望書に対する大学ポートレートの対応方針につきまして、事務局から説明をお願いしたいと思います。

【金大学ポートレートセンター事務室長】

大学ポートレートの充実についての要望書について説明いたします。

参考資料3をご覧ください。前回の本運営会議で資料を配付させていただいておりますが、平成28年3月に認証評価機関連絡協議会から提出された要望書の鑑と別紙として黄色く塗られた35項目が要望項目でございます。

次に、資料5をご覧ください。認証評価機関連絡協議会からの要望への対応について、ご審議をお願いしたいと思っております。まず、要望に対する方針についてですが、認証評価機関連絡協議会から要望のあった項目は、今後、認証評価機関連絡協議会と検討を続けることとして、可能な範囲で収集・蓄積を実施する方針としております。その際の具体的な検討の1つ目としまして、追加収集・蓄積を要望された項目の定義について同協議会と協議したいと思っております。2つ目としましては、蓄積・収集したデータを認証評価に活用するという趣旨の要望でございますが、蓄積・収集したデータを大学に提供するのか、あるいは認証評価機関に直接提供するのかといった提出方法について、同協議会と今後協議をしたいと思っております。

具体的に協議する項目の定義についてでございますが、参考資料3の別紙に収集・蓄積の要望がありました35項目について、例えば、入学者数といった数値については、データの時点をいつにするのかという定義の問題がございます。文部科学省の学校基本調査であれば、5月1日時点のデータを収集しております。また、教員については、専任や兼任の解釈を確認しないといけません。校舎敷地面積や図書館の面積についても、本館だけなのか分館を含めるのかといった定義を確認したいと考えております。

それらを踏まえまして、資料5の2ページ目に用意しておりますのが、回答案でございます。認証評価機関連絡協議会の議長から本運営会議の鈴木議長宛てに要望をいただいておりますので、鈴木議長から認証評価機関連絡協議会議の議長に回答をするという形としております。先ほど説明いたしましたとおり、1点目としまして、データ収集・蓄積は可能な範囲で対応するという事としております。2点目としましては、要望のありました各項目の定義を確認させてほしいということ、また、データの提供方法、提供先について、認証評価機関連絡協議会と協議を進めていきたいと思っております。

以上、このような回答でよろしいのかのご審議をお願いいたします。

【水戸委員】

各大学でも認証評価のサイクルが来るたびに事務負担がかかっているということで、このような形で日頃から情報収集をして、認証評価の資料として役立てるとするのは、省力

化・合理化の観点から非常に好ましいと思います。ただ、認証評価で集める項目の中で、例えば定員充足率等も入ってきているわけです。認証評価作業のために大学ポートレートで情報収集をして、それが大学ポートレートにおいて公表扱いになると同じような問題が出てくるのではないかとということで、そのあたりの区別さえつけておけば、各大学で認証評価のたびに自己点検委員会等をつくって、いろいろな作業をして係数を積み上げて報告書として出す手間を省くという観点から、進めるべきだと思います。ただ、少し留意すべき点があるのではないかとということでございます。

【岡本委員】

認証評価機関連絡協議会の議長として発言をさせていただきます。

ここにある要望項目は、短期大学及び大学の機関別認証評価で共通して収集しているデータです。したがって、要望項目を公表するかについては本運営会議で議論することですが、このようなデータは各認証評価機関が共通して収集しているものです。評価をするときには受審する大学と認証評価機関、それから評価する評価委員の先生が同じデータを持っていないと意味がないわけです。そういうことを考えると、どのようにデータを共有していくかというのはおのずから答えが出てくるだろうと思っています。認証評価機関連絡協議会は平成28年8月末に開催を予定しているので、まずはそちらで議論するのですが、認証評価機関としては、例えば認証評価機関同士が同じデータを使うとか、そういったことを共通化していくことができればと思っています。

【水戸委員】

認証評価疲れを解消するためには、データの収集・蓄積・共有化を進めるべきだという点では賛成です。ただ留意すべき点があるということを、付け加えたいと思います。

【田中委員】

実際にどうなるかはまだ想像がつかないのですが、認証評価で使う項目と大学進学を希望している生徒、学生たちが見る、見たいと思う項目は、大分違うと思います。しかも、英語版が入ってくると、留学生が見たい項目もまた違うと思います。それぞれ、ずれてくるはずですが、そうしますと、例えば検索をかけたときに、全部の項目が出てくる必要は全くないので、その区分けをどうするのか。公表するかどうかをもって区別ができるのであ

れば非常にすっきりするのですが、活用目的によって区別できる仕組みかどうかよくわかっていないのですが、できるのでしょうか。

【武市大学ポートレートセンター長】

少なくとも大学改革支援・学位授与機構が担当する国公立大学等について申し上げますが、公表項目は公表いたしますが、それ以外の項目は公表しないことを考えております。認証評価で用いるデータをどのように社会に公表するかということは認証評価を通じて行われるべきであって、大学ポートレートからの公表ではないと考えております。そのため、データについての取り扱いは、認証評価機関に決めていただくことになると思います。認証評価機関によって公表の範囲も違うかと思いますが、場合によっては、大学ポートレートで収集・蓄積するデータを含めた認証評価の結論が公表されることもあり得ると考えております。

【佐藤委員】

私立大学のデータは、毎年度、学校法人基礎調査という形で各学校に同じ時期に求めております。その中から、学校が公表してよいというデータが大学ポートレートに遷移するシステムになっておりますので、想定するのは、認証評価機関に出してよいという学校の意味をもって、そのデータを認証評価機関に出していくとイメージしています。その範囲であれば、いわゆる公表するしないというのは全て学校の判断という形にもなりますし、安全性も確保されているので。日本私立学校振興・共済事業団としては必ず学校に意思確認を行う形をとっております。

【岡本委員】

ただいま佐藤委員がおっしゃったことは認証評価機関連絡協議会の中でも議論していますが、認証評価機関が直接、大学ポートレートないしはデータベースにアクセスすることはできませんし、認証評価機関としてはそのデータを大学にしっかりと確認していたかかないと認証評価には使えないので、あらかじめ収集・蓄積したデータを大学が使用してよいということであれば、そのデータをそのまま出していただければそれで用が足りることになります。

【水戸委員】

毎年蓄積して入力している情報について、7年間のデータを一括して大学の認知のもとに、認証評価のための資料として出していくということですか。

【岡本委員】

認証評価機関がデータを大学ポートレートから直接もらってしまうと、大学に認証評価機関がデータの内容を確認することになってしまいます。その点を今、議論しているところだと思います。

【水戸委員】

認証評価報告書を書くのは各大学ですので、それは当然です。データを7年に1回、大変な思いをして整備するのか、それとも日頃から蓄積しているデータを利用するかという違いであり、当然後者をすすめるべきだと思います。

【鈴木議長】

7年に1回の認証評価の準備を大変だけれどもすればよいという意見と、蓄積したデータを活用するのが好ましいという意見が出てくるかと思います。

認証評価機関連絡協議会からご要望のありました35項目については、認証評価機関連絡協議会と調整を図りつつ対応を進めていきたいと思っておりますので、ただいまいただきましたご意見等も、その中で議論していくということにさせていただければと思っておりますがよろしいでしょうか。

(委員からの異議なし)

【鈴木議長】

それではそのようにさせていただきます。

続きまして、大学ポートレートによる教育情報の公表の状況について、事務局から説明をお願いいたします。

【金大学ポートレートセンター事務室長】

それでは、資料6及び資料7に基づきまして、大学ポートレートの参加意向の確認及び

公表画面のアクセス数について報告いたします。

資料6をご覧ください。平成28年度の大学ポートレート参加意向確認状況については、国立大学は100%、公立大学は79.1%、公立短期大学が76.5%、私立大学が96%、私立短期大学が95.5%、株式会社立が75%ということで、全体で参加校は1,042校、94.3%でございます。平成27年度の参加大学数から平成28年度は2校増えております。

次に、資料7をご覧ください。大学ポートレートの公表画面へのアクセス数についての月別数でございます。これにつきましては、国公私共通のトップ画面及び大学改革支援・学位授与機構が担当している国公立のページ、加えて日本私立学校振興・共済事業団が担当している私学のページの3つを足したページビューの合計でございます。平成28年4月からアクセス数が減っているのは、日本私立学校振興・共済事業団の検索ツールを国公立大学と同様にグーグルに変更したことによるものです。このアクセス数につきましては、前回の本運営会議でも様々なご意見をいただいているところでございますので、今後、アクセスしているユーザーの属性であったり、どのページを見ているかなどにつきまして分析をしていければと思っております。

報告は以上でございます。

【村上委員】

アクセス数が減ったことについて、実質的にどのような理由でしょうか。以前もこの程度だったということですか。

【谷地私学経営情報センター長】

実際に使っていただいている高校生、あるいは高校の先生方、大学関係者の規模は、大学ポートレートのスタート時点から変わっていないと思われまます。私立大学の場合は、平成28年3月まで、検索エンジンが見ていた分が含まれていたということですか。

【田中委員】

実際に人がアクセスしているいろいろなページを見ている実数は、28年4月、5月頃の実数と同程度であると考えてよろしいということですか。あとは検索ロボットが見ていたという意味でしょうか。

【谷地私学経営情報センター長】

田中委員のおっしゃるとおりでございます。

【鈴木議長】

アクセス数についても、大学ポートレートが始まる前にどの程度になるのだろうという予想や議論もございましたが、このようなデータとして表れているということでもあります。

【松ヶ迫次長（原田委員代理）】

そうしますと、月平均や1日当たりの平均値は意味がなくなってくるのではないかと思いますので、今後は少し記述に気をつけたほうがよろしいかと存じます。

【武市大学ポートレートセンター長】

おっしゃるとおりでございます。ただいまのご指摘のように、平成26年から平成27年のデータが1年間分あるわけですけれども、これと平成28年のデータがどうして違うのかという説明も付して、次回からはデータのとり方、あるいは解釈ができるような資料を用意させていただきたいと思っております。

【田中委員】

検索数のことも気になるのですけれども、費用対効果の点からいうと、英語版が特にそうだと思うのですが、留学生なり学生なりの検索方法は、大学名から入っていくのではなくて、自分が見たい項目から入っていきます。そうすると、大学はそれぞれウェブサイトをつくっていますから、詳しいことはそちらを活用してもらうのが基本になる。大学ポートレートの検索から入ってくる場合は比較をしたいわけです。したがって、比較ができるような項目だけをここで取り扱うというように、シンプルにしておく必要があると思います。そうしないと、先ほど佐藤委員がおっしゃったように、箱が限りなく増えていく、しかもそれが実際にはあまり効果がないということになってしまいます。アクセス数を増やすという意味でも、大学ポートレートに入れば大学名がわからなくても、大学のことをほとんど知らなくても、知りたい項目を入れるとちゃんと比較が出てくる、絞られてくるというのがよいと思います。大学ポートレートの役割は各大学のウェブサイトには代わるものではないですから、そのように目的をはっきりさせる必要があるかなと改めて思いまし

た。

【武市大学ポートレートセンター長】

田中委員からご指摘があったように、国際発信項目については、日本語版の大学ポートレートより整理した、少なくとも項目が少なく見える姿にし、簡素化されております。これをもとにして、日本語版についても改良するということを考えたいと思っております。ただ、比較の件に関しましては以前からのとおりでございますので、本運営会議でご判断をお願いいたします。

【鈴木議長】

比較に関しましては、いろいろな議論が長い間なされてまいりまして、基本的には比較のために行うのではないということも言われてきたわけですがけれども、一方で、大学ポートレートを利用するステークホルダー、あるいは海外からのアクセスということを考えていきますと、ただいま田中委員がおっしゃったことも十分に考えなければいけないと思う次第です。これも今後の課題と思っております。

それでは、今後のスケジュールにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【金大学ポートレートセンター事務室長】

平成 28 年度の予定としましては、大学ポートレートステークホルダー・ボードを、9 月から 11 月の間に実施したいと思っております。その後、本運営会議（第 6 回）を 1 月頃から 3 月頃に開催させていただければと思っております。

本運営会議の委員につきましては、平成 28 年 8 月末で任期が満了する予定でございます。次期運営会議の委員の委嘱につきましては、今後、大学改革支援・学位授与機構から各団体に推薦依頼を行う予定としておりますので、引き続きご協力をお願いできればと思っております。

以上でございます。

【鈴木議長】

ありがとうございます。

ただいま説明がございましたように、本運営会議の委員の任期は、平成 28 年 8 月末日と

ということです。次期委員の委嘱については、今後、大学改革支援・学位授与機構から各団体に推薦依頼を行うということでございますので、よろしくご了承をお願いいたします。

それでは、以上で本日は閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

— 了 —